

山内裕雄・真角昭吾・辻 陽雄・桜井 実 編

今日の整形外科治療指針 (第2版)

B 5 判 730 頁 12,875 円 (税込) 1991 年 医学書院 刊

河野 左宙

(聖隷浜松病院顧問, 新潟大学名誉教授)

一般に新刊 (改版) 書の書評は、衆目が認める熟達の識者により執筆されるのが通例である。とくに現役を離れ、近年、とみにそのスピードを増している整形外科領域の進歩に追いつき得ないこの老生に、第2版「今日の整形外科治療指針」の書評の依頼を受け戸惑いを感じている。が、書名のごとく「指針」として簡潔平易に記載され、超専門の書でないことに勇気づけられ、あえて執筆させていただくことにした。

初版の序文にある通り、医学書院から永年にわたり毎年刊行されている「今日の治療指針」は各科に跨る一般医家向きの好著であるが、その中で整形外科部門は、その大部分が「運動器疾患」に限定され、トピックスを選んでの記述にとどまっていた。本書はその点を広域に補い、現在整形外科で取り扱う疾患を網羅し、約400項目につき、150余名の執筆者により、その初版が1987年に刊行された。整形外科領域の急速の進歩は、数年を要せずして増改版の必要に迫られ、初版に続き山内教授を主幹として、真角、辻、桜井の4教授の綿密な企画と編集により、大幅な執筆者の更新と、時代の進歩に沿う記載項目の拡大が試みられ、第2版としてこの度刊行された。

最も注目すべき点は、初版にはなかった「基本的治療手技」を第

1章に、「検査・治療器械・材料の進歩」を第2章に新設し、その執筆者に整形外科以外のそれぞれの項目で当代最右翼の専門医を煩わし、極めて適切、明快な記述がなされている点であり、高く評価したい。とりわけ画像診断、関節鏡、人工物の項目では、最近の進歩として必読の記載がなされている。また近年、スポーツの普及と過熱による各種障害と、その対策については、他科に先んじて整形外科医が諸学会や誌上等で活発な研究発表を展開してきたが、本書でもその第10章に実績豊かな諸氏により重点を纏めた記載がなされ、第11章に新たに加えられた「整形外科医とリハビリテーション」の項目とともに本書を新時代に沿う充実の書としている。

本書では各項目の名称を和文欧文で併記し、項目ごとに執筆者名が明記されており、従来、時に鮮明を欠くことが多いX線像は最少限にし、理解に役立つイラストを随所に挿入した点、ならびに治療方針・保存療法・手術療法に分けて記載されている点は、治療指針の書としての面目を保っている。とかく粗雑になりがちな最後の「索引欄」では、和文、欧文に分け、計50頁を費やして細部にわたり、綿密に記載されていることは、読者を裨益する点が多いが、周到な編集者の配慮の現れといいたい。

なお、初版の序文に述べられているように、分担執筆特有の濃淡のムラが、特に治療方針の個所にみられるが、これは執筆者の治療上の傾向の反映でもあり、(筆者自身が時に時代の趨勢離れの選択を墨守している点を考慮に入れ) 通読して特に重大な偏向はないので容認されてよいであろう。

本書を満遍なく読破していないので、内容の細部にわたっての論評は避けたいが、編集者の緻密周到な企画により、現今整形外科で対象となる疾患のほとんどすべてが収録されている。筆者の見落としであればご容赦願いたい。脊椎項目で椎間板炎の記述が見当たらなかった点ぐらいで、出色の書といえる。

現在、整形外科を標榜する大多数の施設では、実に広域の疾患が診療の対象となっているので、浅くとも全域にわたる一通りの知識を必要としている。序文にあるように、「最新の情報を提供し、かつ手軽に役立つ書」として、うってつけの好著であり、さらに細部については別の専門書を紐解けばよいであろう。ともあれ、本書は整形外科医のみならず、外科・整形外科を標榜しておられる一般診療医にとって好個の指針書として推奨したい。

編集にあられた4教授、ならびに進んで真摯の執筆をなされた同僚の各位に心からの敬意を表したい。ご苦勞を重々承知で、あえてお願いできれば、さらに2~3年後に第3版が企画され、「最近の情報提供」の書の刊行を熱望して筆をおく。